

日本におけるジオパークと エコパークの関係性

2021/2/17
第5回 BRセミナー

目代邦康（東北学院大学教養学部）



UNESCO Global Geoparks

Celebrating Earth Heritage,
Sustaining local Communities



<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000243650.locale=en>

Top 10 topics

within UNESCO Global Geoparks

Natural Resources

Geological Hazards

Climate Change

Education

Science

Culture

Women

Sustainable Development

Local and indigenous Knowledge

Geoconservation

機能の拡張

Geoconservation, Education, Sustainable Development (sustainable geotourism) に加え、自然資源、自然災害、気候変動、女性問題なども主要なトピックスに.

STATUTES OF THE INTERNATIONAL GEOSCIENCE AND GEOPARKS PROGRAMME

国際地質科学ジオパーク計画定款

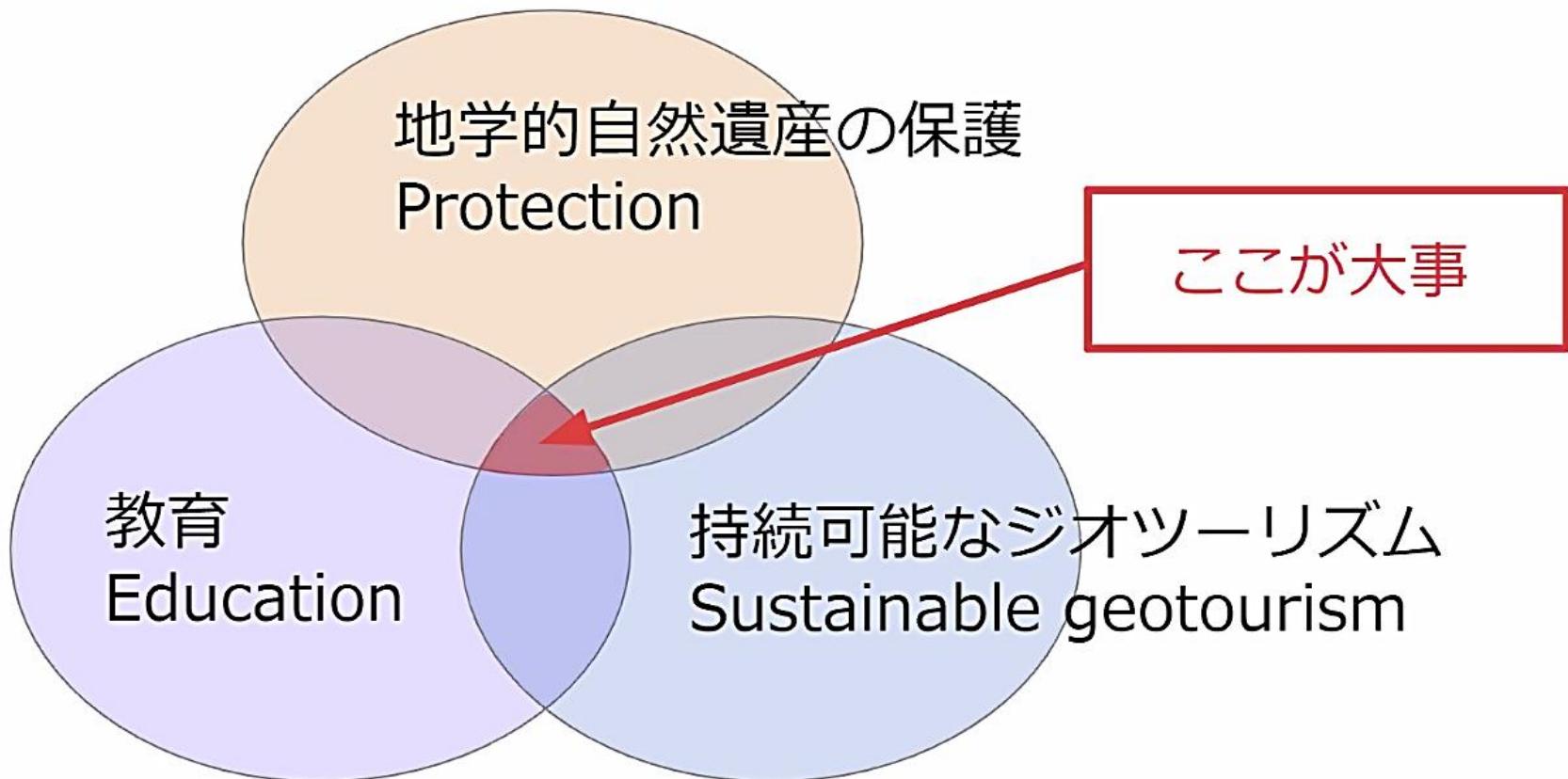
IGGPにおけるユネスコ世界ジオパークは、国際的な価値のある地質遺産を有する地域が、ボトムアップ形式の遺産の保全を通じて、その遺産への意識向上のために地域社会と連動してお互いを支援し、その地域の発展に持続可能な方法を採用する、国際協力の仕組みである。

UNESCO Global Geoparks, within the IGGP, are the mechanism of international cooperation by which areas of geological heritage of international value, through a bottom-up approach to conserving that heritage, support each other to engage with local communities to promote awareness of that heritage and adopt a sustainable approach to the development of the area.

ジオパーク活動とは

- 「保護」，「教育」，「持続可能な開発」の総合的な包括的な概念
 - UNESCO Global Geoparks are single, unified geographical areas where sites and landscapes of international geological significance are **managed with a holistic concept of protection, education and sustainable development.**
 - (ユネスコ世界ジオパーク定款)

ジオパーク活動の三本柱



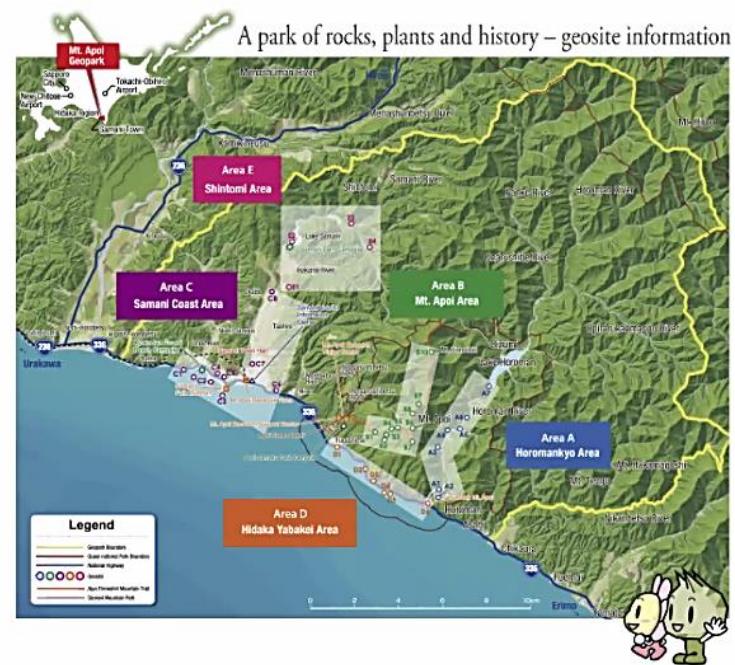
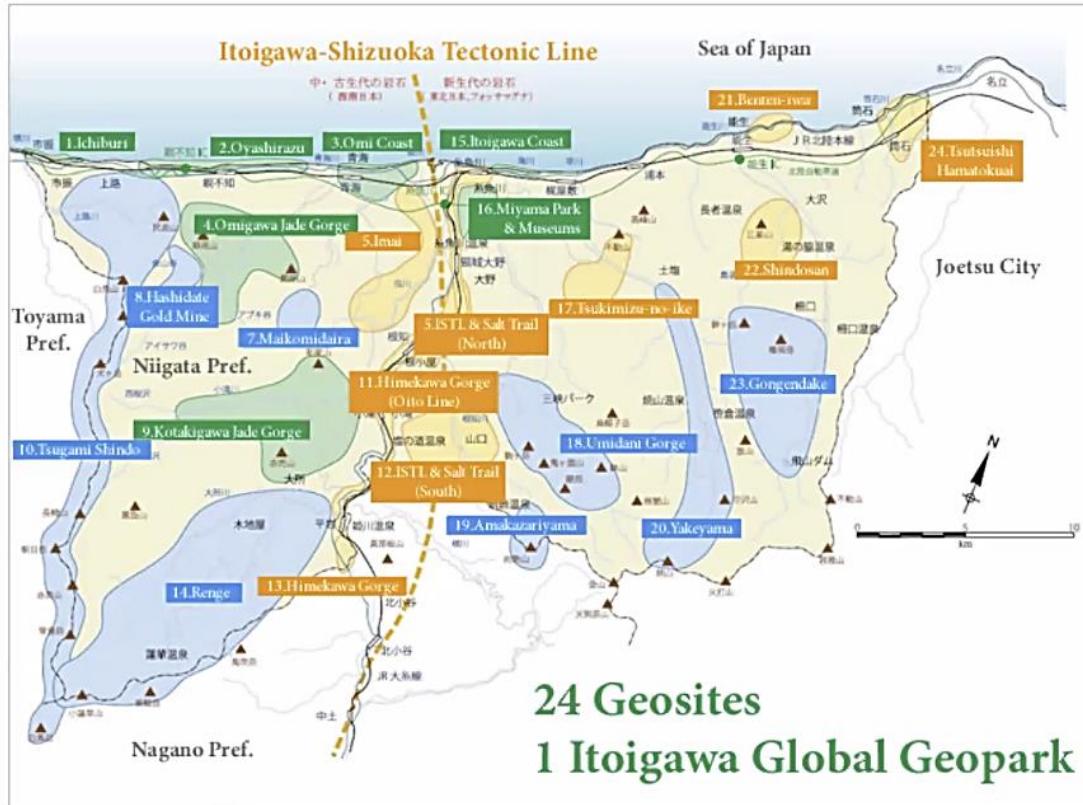
何を保全するのか

- UNESCO Global Geoparks are single, unified geographical areas where **sites and landscapes** of international geological significance
(ユネスコ世界ジオパーク定款)
- 価値を持つ場所の保全 = サイトの保全
- 景観スケール（広域）の保全
 - 景観スケールのシステムの存在

サイト

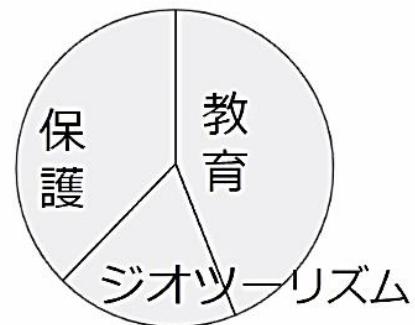
- ジオサイト
 - 地球科学的価値を持つもの
- 自然サイト
 - ジオサイト以外の自然科学で評価されるサイト
 - 評価は既存のものを利用
- 文化サイト
 - 地域の伝統, 文化, local knowledge を示す場所
 - 評価は既存のものを利用

日本のジオパークにおけるジオサイトの設定



ジオパークにおけるジオサイト

- ・機能
 - サイトにより割合は異なる



Biosphere Reserveにおける対象地域の整理



- HUMAN SETTLEMENT
- RESEARCH
- EDUCATION & TRAINING
- TOURISM
- Core area
- Buffer zones
- Transition area

景観スケールの保全

- ・ 物質循環のシステムの保全 ←site-based conservationの限界を超える?
 - 水循環（流域）, 炭素循環・・・
- ・ 景観スケールでのジオ多様性, 生物多様性の保全
 - 総体としての価値
- ・ 伝統的な自然資源利用形態としての価値
 - 社会－生態システム

2019 先住民族の言語の国際年

- 先住民族 およそ90ヶ国に3億7000万人
- 2007, 国連『先住民族の権利に関する宣言』
- 文化（特に言語の多く）が消滅の危機
- 2019 ユネスコ 先住民族の言語の国際年
 - 先住民の言語は、7000語. このうち2500語が危機的な状況.
 - アイヌはその中でも極めて深刻.
 - 誰が言語を守るのか？

ジオパークにおける保護・保全指針

ジオパークで、何を保全するのか？どのように保全するのか？

- ジオサイト
- 景観
- 文化

何が大切と考えるのか？
その意識の共有

日本ジオパークネットワークの動き

2018年

「日本ジオパークネットワークの自然資源保全に関する指針」

はじめに

保全の視点から見たジオパーク

保全の進め方

世界ジオパーク認定審査等において示された地質遺産の保全
についての考え方の例

地質物品の販売禁止

持続可能な地域を実現するために（課題解決への模索）

各地のジオパークの取り組み

いくつかのジオパークで、保全指針を策定

- 山陰海岸ジオパーク保護保全管理計画
- 下北ジオパーク保全方針・保全管理計画

いくつかのジオパークで、保全指針を策定中

- 南紀熊野ジオパーク
- 鳥海山・飛島ジオパーク

下北ジオパーク保全方針

- (1) 地形・地質の保護：**下北ジオパークに存在する貴重な大地の活動の遺産を守るために、地形・地質の保護に努め、持続可能でない開発行為やそれに伴う地質物品の取引等の防止に取り組みます。また定期的なモニタリングを通じ、現状を維持する場所、対策を要する場所、一般の人々の立ち入りを制限する場所などを分類し、それぞれに応じた対策を講じます。
- (2) 生態系の保護：**ジオパークにおいては多様な動植物が息づく環境を守っていくことが重要と考え、下北ジオパーク内に生息する貴重な動植物の把握や生態についてのカルテを作成し、定期的にその内容を見直すとともに、法令遵守や住民活動を通じた生態系の保護を図ります。
- (3) 持続可能な利活用：**ジオパークは貴重な大地の活動の遺産をはじめとした自然の保護を前提に、教育・観光・産業などに活用することで地域を活性化するという側面を持つことから、地域の地形・地質的な特徴を背景に成立してきた人々の生活や歴史、文化を尊重しつつ、その価値を損なわないような活用を図ります。
- (4) 保全に係る情報の把握と意識の共有：**自然災害による道路の不通や海岸ゴミの増加等、ジオサイトの状況も様々な要因によって変化します。協議会は地域住民、行政機関、協力団体などと情報共有を行うことでサイトの状況把握に努め、地域内における保全意識の共有を図ります。

年表

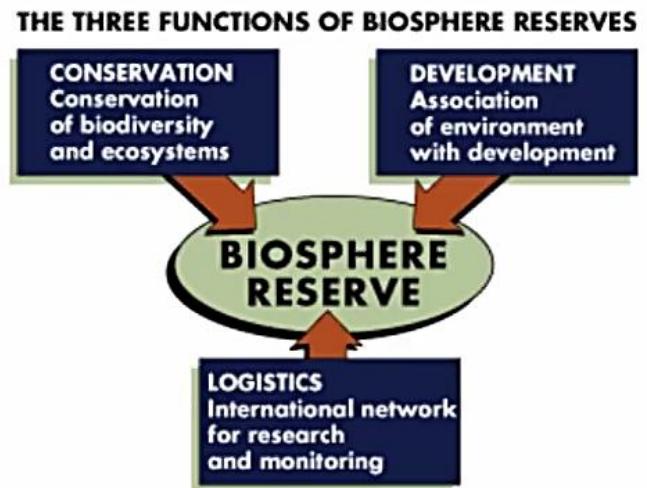
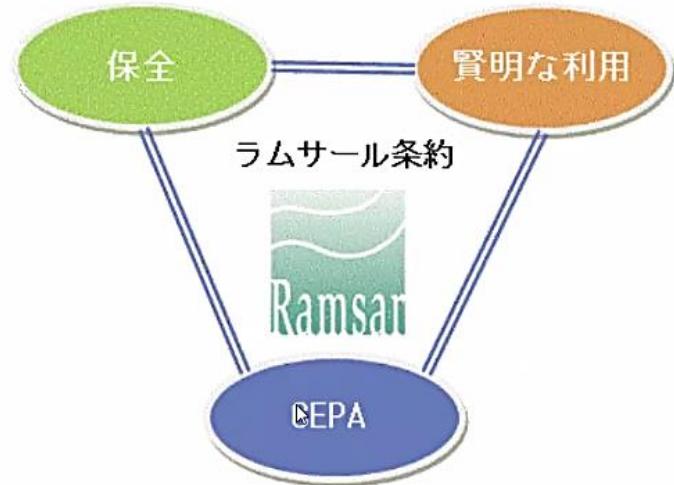
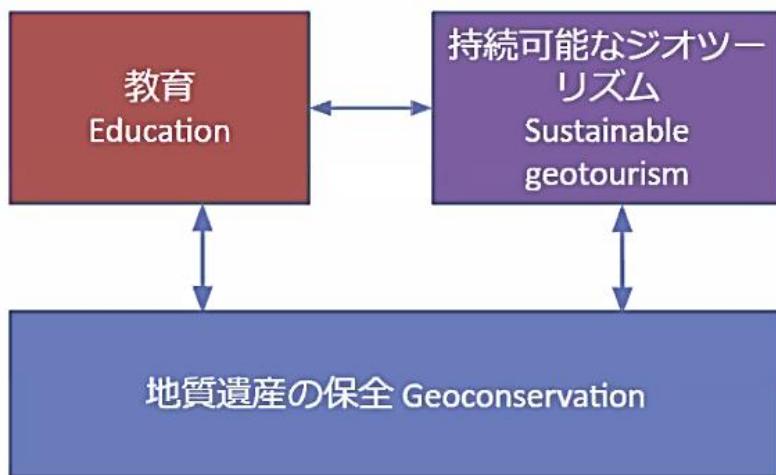
1971	RS イランラムサールで「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」採択
1971	BR MAB (Man and the Biosphere) 計画発足
1972	WH 国連人間環境会議（ストックホルム会議）. アメリカ合衆国が、国立公園制度誕生100年（1872→1972）を記念して、「世界遺産トラスト」制度を考案。ユネスコの、文化財の保護のプロジェクトと合体させて、世界遺産の制度をつくる。
1972	WH ユネスコ総会、世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）成立
1976	BR 生物圏保存地域Biosphere Reserves;BR認定開始
1980	RS 日本、ラムサール条約加盟
1980	BR 白山、大台ヶ原・大峰山、志賀高原、屋久島の4地域が日本最初のBRに。
1992	WH 世界遺産条約、日本批准
1995	BR セビリア戦略の合意
2002	Gp IGCPがジオパークの支援表明
2004	Gp GGNがフランスのNGOとして発足
2009	Gp 洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の3地域が日本最初の世界ジオパークに
2015	Gp ユネスコの正式プログラム、国際地質科学ジオパーク計画（IGGP）の一事業として位置づけられる。

表1 日本のジオパークをめぐる動き（2009年まで）

1996年	第30回万国地質学会議(IGC)において geoheritage とジオツーリズムに関するセッション開催
1997年	ユネスコ総会において UNESCO Geopark Programme をユネスコ地球科学部（当時、現在は生態・地球科学部）が提唱
2000年	欧州連合の支援とユネスコの協力でヨーロッパジオパークネットワーク(EGN)発足
2001年6月	ユネスコ執行理事会が、ジオパークをユネスコの正式プログラムにしないが、加盟国の要望に応じて個別にジオパーク活動への支援を行うことを決議
2002年2月	ユネスコのプロジェクトである地質科学国際研究計画(IGCP)の科学理事会がジオパークの推進を決議
2004年3月	IGCP日本委員会波田委員長（当時）が現山陰海岸世界ジオパーク地域内の岩美町・香美町でジオパークについて講演
2004年4月	NPO法人地質情報整備活用機構(GUPI)設立
2004年6月	世界ジオパークネットワーク(GGN)がユネスコの支援で発足
2004年8月	GUPIホームページ内にジオパークを紹介するページ新設
2004年9月	日本地質学会年会の夜間小集会で国連国際惑星地球年とジオパークに関する小集会開催
2005年10月	日本地質学会ジオパーク設立推進委員会設立
2006年9月	第2回ユネスコ世界ジオパーク会議で日本のジオパーク構想に関する三件の発表
2007年1月	国連国際惑星地球年開始（2008年を中心とし、2009年まで）
2007年5月	「日本の地質百選」発表
2007年5月	日本地球惑星科学連合大会においてジオパークに関するセッションが開催（2009年以降毎年開催）
2007年6月	朝日新聞科学面にジオパークと日本の地質百選が掲載、ジオパークに関心を持つ自治体が増加
2007年7月	地質ニュース（産業技術総合研究所地質調査総合センター編集）7月号がジオパーク特集号として発行
2007年10月	日本ジオパーク連絡協議会発起人会がGUPIで開催
2007年12月	日本ジオパーク連絡協議会設立総会開催、同協議会発足
2008年1月	ジオパークに関連する省庁の連絡会議開催、この後設立される産総研を事務局とする日本ジオパーク委員会が世界ジオパークネットワーク申請地域の選定を行うことを了承
2008年5月	日本ジオパーク委員会(JGC)発足、第1回委員会開催
2008年10月	JGCが島原半島、糸魚川、洞爺湖有珠山の3地域を日本最初のGGN加盟申請候補に選定
2008年11月	上記3地域に加えて室戸、山陰海岸、南アルプス（中央構造線エリア）、アポイ岳の計7地域をJGCが日本ジオパークに認定
2009年2月	日本ジオパーク記念式典開催、日本ジオパークネットワーク(JGN)の設立宣言
2009年5月	JGN設立総会、JGN発足
2009年8月	前年にGGN加盟申請を行った三地域のGGN加盟決定
2009年10月	JGCが山陰海岸をGGN加盟申請候補に選定、3地域を新たにJGN加盟認定（2地域の加盟申請を却下）

Zouros (2004), Patzak and Missotten (2007), 岩松(2008), 著者の記録, ユネスコホームページのユネスコ総会・執行理事会議事録に基づく

RS, BRとGpの類似性



A Quick Reference Guide

Biosphere Reserves, Global Geoparks, Ramsar Sites, World Heritage Sites

There are currently four globally active intergovernmental, site-based conservation and/or sustainable development instruments in operation. These are designed to encourage national governments and local communities to identify special places, and to work together in ensuring they are conserved and/or used sustainably for current and future generations. As their popularity grows, and as an increasing number of people worldwide are exposed to them in either their personal or professional lives, the potential for confusion arises.

This quick reference guide was developed to help people understand how each of these instruments functions, how they differ, and how they complement each other. As these instruments evolve over time, and as the number of sites recognized through them grows, the information included in this pamphlet may become out of date. For the most updated information, please consult each instrument's respective website.

UNESCO
の整理
2014

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000229213.locale=en>

良いプログラムなら1地域で複数可能か？

Thomas Schaaf and Diana Clamote Rodrigues(2016)
Managing MIDAs. IUCN.

Harmonising the management of
Multi-Internationally Designated Areas: Ramsar
Sites, World Heritage sites, Biosphere Reserves
and UNESCO Global Geoparks

<https://doi.org/10.2305/IUCN.CH.2016.03.en>



Managing MIDAs

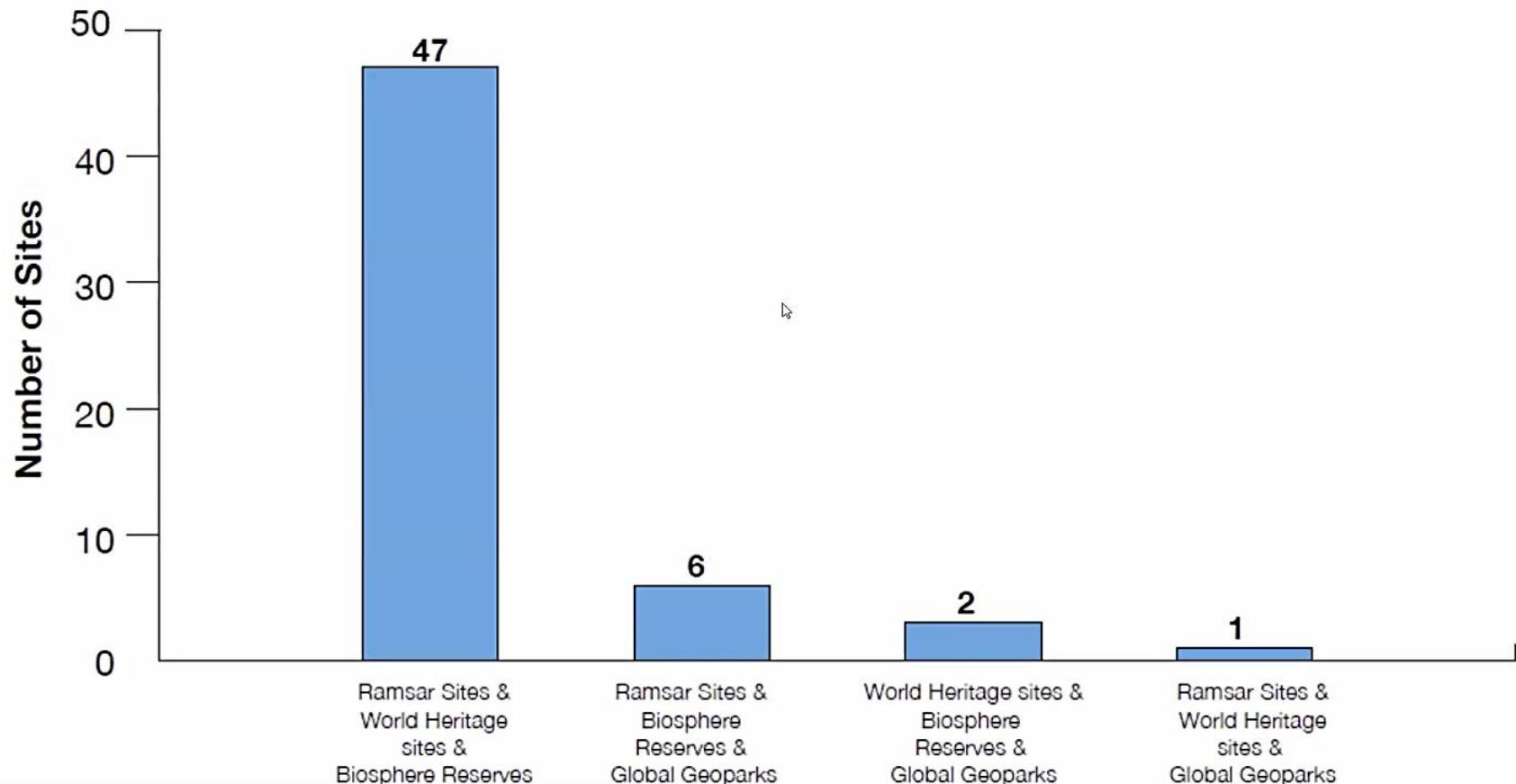
Harmonising the management of Multi-Internationally Designated Areas: Ramsar Sites, World Heritage sites, Biosphere Reserves and UNESCO Global Geoparks

Thomas Schaaf and Diana Clamote Rodrigues



환경부
Ministry of
Environment

Figure 3. Frequency of triple designated sites



...

万人受けしない書き込みです。

11月に南アルプスジオパーク（中央構造線エリア）の4年ごとに再審査（再調査）で、伊那市・飯田市・大鹿村・富士見町に行きます。

このジオパークエリアはユネスコエコパークにも認定されています（エコパークは長野県サイドだけではなく山梨県・静岡県にまたがっています）。

エコパークとジオパークを両方やるって意味あるんですかね？

エコパークだけでもよくなですか？

ジオ（地質）とエコ（？）で区別していますとか言われそうで怖い…。

そもそも消費者が混乱しない？

白山手取川ジオパークは上手にやっているんだろうか…？

コメント12件

いいね！

コメントする

どうやら万人には入らないらしいです。
話を振られたようにも思うので、朝のボケ頭で雰囲気を。

白山でも（私は）プランディングの難しさを感じています。ジオパークとエコパークは、本質的には保全すべきものは同じです。軸足の置き方の違いだけで、トータルとして目指す方向性は同じです。特に、白山エコパークは多雪高山生態系ですので、ジオパークのストーリーとも同質性が高いものがあります（南アルプスは、その点、区別しやすいのではないかと思います）。

ただし、白山のジオパークとエコパークは、発足の経緯もあり、志向する方向性が異なる感じています。ジオパークは明確に白山市の地域づくりを志向しているのに対し、エコパークは資源活用と保全だとと思っています。その意味で、整合的に活動を進める必要はあると思っていますが、「どっちかだけでいいよね」にはならないと思っています。

まあ、両方の学術委員をやっていると、ジオの皆さんの方がエコに対する関心が高いのに対し、エコの皆さんにはジオへの関心が低い（制度論ではなく、自然システム論として）ようになります。一本化するならシステム論的にはジオパークのようにも思ったりもします。

いいね！ · 返信する · 19週間前 · 編集済み

重複をどう考えるか？

A：国内外のGpの審査経験者

B：白山手取川Gpの学術委員

ユネスコ世界ジオパークのクライテリア

クライテリアiv：申請地域が世界遺産や生物圏保護地域といった他のユネスコ認定サイトと重複する場合、要請は明確に根拠づけられ、かつ、ユネスコ世界ジオパークが他の認定と独立してブランド化されながら相乗効果を出すことで、（その地域に）どう価値を付加できるのか証拠を示さなければならない

→相乗効果がないのであれば、複数プログラムの実施は地域の負担

認定の権力性

ジオパークの仕組みがあるから保全をするのか？

ジオパークに関係する人が大事に思うものは何か？

それをジオパークで、保全することはできるのか？

ジオパークを使わない保全の可能性、方法の検討

ジオパークにおいてBiodiversityの保全をどう考えるのか， BRにおいてGeodiversityの保全をどう考えるのか？

- 日本のジオパーク：保全の活動は顕著ではない。日本で活動が始まって、10年経った現在、インベントリーの作成、保全計画の立案がやっと行われるようになった。
- Biodiversityの3階層、DNA、種、生態系を考えるときに、生態系には、無機的な自然環境（地質、地形、水文、気象・気候）が大きく関与していることをどれくらい認識できているか？

コストの問題

複数プログラムを実施する際に、2倍とまではいかなくとも、1.8倍程度のコストをかけることができるのか？

Jejuの実践

統括的な組織を設置。そこが全体のバランスを考えて活動を推進。